

【弱さから生み出されるもの】

名前 _____

【聖書箇所】 ルカ 22 章 31 節～62 節（新改訳第 3 版/抜粋）

22:31 シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。22:32 しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」22:33 シモンはイエスに言った。「主よ。ごいっしょになら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております。」22:34 しかし、イエスは言われた。「ペテロ。あなたに言いますが、きょう鶏が鳴くまでに、あなたは三度、わたしを知らないと言います。」…

22:39 それからイエスは出て、いつものようにオリーブ山に行かれ、弟子たちも従った。22:40 いつもの場所に着いたとき、イエスは彼らに、「誘惑に陥らないように祈っていなさい」と言われた。22:41 そしてご自分は、弟子たちから石を投げて届くほどの所に離れて、ひざまずいて、こう祈られた。22:42 「父よ。みこころならば、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、みこころのとおりにしてください。」22:43 すると、御使いが天からイエスに現れて、イエスを力づけた。22:44 イエスは、苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。22:45 イエスは祈り終わって立ち上がり、弟子たちのところに来て見ると、彼らは悲しみの果てに、眠り込んでしまっていた。22:46 それで、彼らに言われた。「なぜ、眠っているのか。起きて、誘惑に陥らないように祈っていなさい。」

22:47 イエスがまだ話をしておられるとき、群衆がやって来た。十二弟子のひとりで、ユダという者が、先頭に立っていた。ユダはイエスに口づけしようとして、みもとに近づいた。22:48 だが、イエスは彼に、「ユダ。口づけで、人の子を裏切ろうとするのか」と言われた。22:49 イエスの回りにいた者たちは、事の成り行きを見て、「主よ。剣で撃ちましょうか」と言った。22:50 そしてそのうちのある者が、大祭司のしもべに撃ってかかり、

その右の耳を切り落とした。22:51 するとイエスは、「やめなさい。それまで」と言われた。そして、耳にさわって彼をいやされた。22:52 そして押しかけて来た祭司长、宮の守衛長、長老たちに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってやって来たのですか。22:53 あなたがたは、わたしが毎日宮でいっしょにいる間は、わたしに手出しもしなかった。しかし、今はあなたがたの時です。暗やみの力です。」

22:54 彼らはイエスを捕らえ、引いて行って、大祭司の家に連れて来た。ペテロは、遠く離れてついて行った。22:55 彼らは中庭の真ん中に火をたいて、みなすわり込んだので、ペテロも中に混じって腰をおろした。22:56 すると、女中が、火あかりの中にペテロのすわっているのを見つけ、まじまじと見て言った。「この人も、イエスといっしょにいました。」22:57 ところが、ペテロはそれを打ち消して、「いいえ、私はあの人を知りません」と言った。22:58 しばらくして、ほかの男が彼を見て、「あなたも、彼らの仲間だ」と言った。しかしペテロは、「いや、違います」と言った。22:59 それから一時間ほどたつと、また別の男が、「確かにこの人も彼といっしょだった。この人もガリラヤ人だから」と言い張った。22:60 しかしペテロは、「あなたの言うことは私にはわかりません」と言った。それといっしょに、彼がまだ言い終えないうちに、鶏が鳴いた。22:61 主が振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、「きょう、鶏が鳴くまでに、あなたは、三度わたしを知らないと言う」と言われた主のおことばを思い出した。22:62 彼は、外に出て、激しく泣いた。

1: 自らの弱さを知る時、祈りが生まれる。22:39~44

主イエスはいつも祈っておられた。十字架の直前では夜を徹して祈られ、十字架上でも祈られた。まさに祈りによって導かれる人生であった。

主イエスは弟子達にも祈るように教えられた。なぜ祈らなければならないのか、その理由の一つは、サタンがすきあらば私達の人生を、そして信仰までも破壊しようとしているからである。(22:31、53)それゆえ祈らないという事は、サタンの攻撃に対して無防備な、危機的な状態にあると言える。主イエスに祈るように言われていながらも弟子達は祈れなかった。その表面的な理由は、悲しみと肉体の疲れが原因であった。私達も祈れない理由として、同様の理由を挙げるのではないだろうか。

しかし、主イエスは死ぬほどの悲しみの中でも祈られ、十字架上では文字通り肉体的、精神的な限界を超える中でも祈られた。何が主イエスと弟子達や私達との祈りの違いを生み出しているのだろうか。

それは、自分の弱さを本当に認識しているかどうかにある。ペテロ達は主イエスから忠告されたにもかかわらず、自分は絶対に大丈夫と言い放った。しかし、主イエスの言葉を拒否する信仰姿勢こそが、神に頼らなくても、祈らなくても自分は大丈夫だという心の表れであり、ペテロ達が祈れなかった最大の原因である。そして、これこそサタンの策略に他ならない。主イエスはこの地上生涯を歩まれた時、私達と同じ人としての弱さをもって歩まれた。それゆえ、神の御心に従っていく事がどれほど難しい事か、またサタンの妨げがどれほど強力であるかを知っておられた。

主イエスは自らの弱さを知るからこそ、ひたすらに祈られたのである。

私達も、様々な事柄を通して自らの弱さを知る時、そこから深い祈りが生まれる機会となる事を覚えよう。弱さを知ったペテロ達は、主イエスの復活の後、主イエスが命じられた通りにひたすらに祈り、聖霊の力を受けて、命をかけて主イエスを証する者となった。私達も弱さを覚えるからこそ、主イエスのように、後のペテロ達のように祈り、祈りを通して働く神の力によって、サタンのもたらすあらゆる攻撃、試練を打ち破り、乗り越える者となろう。

2: 自らの弱さを知る者は、他者を力づける者となれる。22:32

主イエスは、弟子達の弱さ、信仰の危機的状况をご存じであった。だからこそ、弟子達に忠告を与え「信仰がなくならないように」と祈られた。

時に、私達もペテロ達のように、サタンのもたらす様々な試練によって信仰が崩れ落ちる事もある。

しかし、そのような時を経てもなお、今、主イエスを信じる信仰を持ち続けていられるのは、他ならぬ主イエスの祈りがあるからであり、主イエスの心を頂いたクリスチャンたちの祈りと支えがあるからである。

サタンがもたらす誘惑、試練の中、打倒される事があっても、主イエスと兄弟姉妹の祈りがあるゆえに、私達は必ず立ち上がる事ができる。また、打倒された経験すらもやがて多くの人々を力づける為に、主が用いて下さる事を心に刻もう。

自分の弱さを知れば知るほど、主イエスの愛の大きさ、祈りを通して働く神の偉大な力を知る機会となる。そして、自分の弱さを知る者こそ、他者を力づける者として主が用いて下さる事を私達は信じよう。

【チャレンジしよう】

- 1: 今、皆さんにお祈りして欲しい事はなんですか。
- 2: 他の弱さを覚えている方々の為に、今週お祈りしましょう。

●メモ
